

レッツ工事台帳V.8 仕訳伝票転記 訂正表(OBC)

「レッツ工事台帳」をご利用くださいます、誠にありがとうございます。

本マニュアルにリビジョンアップにより一部訂正・追加がございます。次のとおり、訂正・追加を致します。

※2016年4月13日時点の全ての本マニュアル追加・変更事項を記載致しております。「◀」が今回変更点です。

ページ	場所	誤	正
全般		勘定奉行2000・勘定奉行21・建設奉行21・勘定奉行[個別原価管理編]	勘定奉行21・建設奉行21・勘定奉行[個別原価管理編]・勘定奉行i10・勘定奉行i10[個別原価管理編]・勘定奉行i10[建設業編] ※勘定奉行i10・勘定奉行i10[個別原価管理編]・勘定奉行i10[建設業編]の出力内容が「OBC受入形式」で読み込みできるようになりました。 ※勘定奉行[建設業編]の操作方法・出力形式等は勘定奉行[個別原価管理編]と同じですので、当マニュアルの勘定奉行[個別原価管理編]の項をご参照下さい。
全般		給与奉行21	給与奉行i10
8	脚注	(記載追加)	リビジョンアップにより、建設奉行21、及び勘定奉行21[個別原価管理編]へ「出庫」仕入先が転記可能になりました。 ※設定方法は、本誌P2をご参照下さい。
10	税区分変換テーブル	(記載追加)	リビジョンアップにより「非売仕」「共売仕」を追加しました。 「非売仕」非課税売上分課税仕入 「共売仕」共通売上分課税仕入 ※平成23年度税制改正(95%ルールの見直し)に伴い、税区分を分ける場合に使用 ※この税区分はレッツ工事台帳の中では「課税」と同じに扱います ※設定方法は、本誌P4をご参照下さい
		(記載追加)	リビジョンアップにより、消費税率毎に税区分変換テーブルが設定できるようになりました。 各画面には予め税区分が設定済です。 設定済の税区分は変更可能です。
13	脚注	(記載追加)	リビジョンアップにより、工事受注書出力条件に「受注日」の範囲指定条件・「 <input type="checkbox"/> 完成工事を未成工事として出力する」オプションが追加されました。 他の集計表同様に受注日の範囲指定で絞り込みが可能です。 「 <input type="checkbox"/> 完成工事を未成工事として出力する」オプションは、運用上工事を完成で登録する場合にONにして下さい。
14	《勘定奉行》[個別原価管理編]での読込操作	(記載追加)	勘定奉行i/i8/i10[個別原価管理編]で読み込む場合 [随時処理]→[汎用データ受入]→[マスターデータ受入]→[プロジェクトデータ受入]を開き、受入データ形式で「OBC受入形式」を選択して読み込んで下さい。 勘定奉行i/i8/i10[建設業編]で読み込む場合 [随時処理]→[汎用データ受入]→[マスターデータ受入]→[工事データ受入]を開き、受入データ形式で「OBC受入形式」を選択して読み込んで下さい。
15	■「勘定奉行2000/21」の場合	(記載追加)	「勘定奉行i/i8/i10」の場合 受入データ形式で「OBC受入形式」を選択して読み込んで下さい。
	■「勘定奉行21[個別原価管理編]」の場合	(記載追加)	「勘定奉行i/i8/i10[個別原価管理編]/勘定奉行i/i8/i10[建設業編]」の場合 受入データ形式で「OBC受入形式」を選択して読み込んで下さい。
18	完成振替仕訳とは	レッツ工事台帳は、工事進行基準・部分完成基準での完成振替には対応しておりません。	工事進行基準・部分完成基準に対応しました。(Ver8.4R01以降) ※完成振替対象工事選択画面にて、未成工事も選択可能になりました。
22	[今回指定]	(記載追加)	<input type="checkbox"/> H22.4労基法対応版形式で出力 チェックがONの場合、平成22年4月改正後の形式で出力されます。 OFFの場合は改正前の形式で出力されます。
23	勤怠項目設定	(記載追加)	平成22年4月改正の労働基準法対応版の場合、「受入記号」KN01～KN16の記号を指定します。 ※給与計算へ転記画面の「転記設定について」ボタンをクリックすると改正後の追加項目について記載がございますのでご参照下さい。

24	■「給与奉行」の場合	(記載追加)	「給与奉行i/i8/i10」の場合 受入データ形式で「給与奉行21 汎用データ受入形式」を選択して読み込んで下さい。
32・33・35・36	受入項目 「完成日」	「工事日程」→「竣工日(予定)」を出力、「竣工日(予定)」が空欄の場合は、「受注日」を出力	出力工事が「未成」の場合、「工事日程」→「竣工日(予定)」を出力、「竣工日(予定)」が空欄の場合は、「受注日」を出力。出力工事が「完成」の場合、「竣工日(実施)」、「竣工日(実施)」が空欄の場合、「受注日」
	受入項目 「引渡日」	「工事日程」→「引渡日(予定)」を出力、「引渡日(予定)」が空欄の場合は、「受注日」を出力	出力工事が「未成」の場合、「工事日程」→「引渡日(予定)」を出力、「引渡日(予定)」が空欄の場合は、「受注日」を出力。出力工事が「完成」の場合、「引渡日(実施)」、「引渡日(実施)」が空欄の場合、「進捗日」
36	受入項目 「プロジェクト名」	桁数 30	桁数 50
		「工事名称」の左から30桁	「工事名称」の左から50桁

※次頁につきましては、リビジョンアップで追加になりました機能について解説しております。

その他の操作方法につきましては、「仕訳伝票転記マニュアル」をご参照下さい。

●建設奉行21●

【概要】

建設奉行21との仕訳連動において、「出庫」仕入先が転記できるようになりました。

【操作】

- ①メインメニューから「仕訳伝票転記」→「財務会計へ転記」を選びます。
- ②「設定」を開きます。
- ③「変換コード初期設定」→「出庫仕入先も転記する」のチェックをONにします。
- ④「出庫詳細設定」をクリックし、変換コード等の設定を行います。

入力項目	桁数
部門コード	4
変換コード(主)	4
(補助)	4
業者コード	8
工種コード	4

※工種コードは現場出力がONで入力可能

項目	設定	備考
1行目	<input type="checkbox"/> 出庫仕入先も転記する <input type="checkbox"/> 現場出力	出庫仕入先も転記するは、出庫仕入先も転記する。現場出力は、現場出力。
2行目	<input type="checkbox"/> 現場出力	現場出力は、現場出力。

業者出力・・・ONの場合、2行目にも業者コードを出力します。
OFFの場合、空白を出力します。

- ⑤承認ボタンをクリックして登録します。
次回転記時より「出庫」仕入先が転記されます。

《注意》

- ※一緒に書出される工事は「入庫」工事となります。
仕入伝票(現場日報 仕入行)を転記します。
支払伝票(現場日報 支払行)は転記されません。

※詳しい内容につきましては、画面上の注意ボタンを参照して下さい。

●勘定奉行21[個別原価管理編]●

【概要】

勘定奉行21[個別原価管理編]との仕訳連動において、「出庫」仕入先が転記できるようになりました。

【操作】

- ①メインメニューから「仕訳伝票転記」→「財務会計へ転記」を選びます。
- ②「設定」を開きます。
- ③「変換コード初期設定」→「出庫仕入先も転記する」のチェックをONにします。
- ④「出庫詳細設定」をクリックし、変換コード等の設定を行います。

(1行目・2行目)

入力項目	桁数
部門コード	4
変換コード(主)	4
(補助)	4

プロジェクト出力・・・ONの場合、貸方に「入庫」工事を出力します。
OFFの場合、空白を出力します。

- ⑤承認ボタンをクリックして登録します。
次回転記時より「出庫」仕入先が転記されます。

＜注意＞

- ※一緒に書出される工事は「入庫」工事となります。
仕入伝票(現場日報 仕入行)を転記します。
支払伝票(現場日報 支払行)は転記されません。

※詳しい内容につきましては、画面上の注意ボタンを参照して下さい。

●完成振替●

【概要】

H21年4月より工事進行基準が義務化されることに伴い、部分完成基準・工事進行基準においても、完成振替処理が可能になりました。

【操作】

- ①メインメニューから「仕訳伝票転記」→「財務会計へ転記」→「完成振替」を選びます。
- ②進捗区分[未成]を選択後、検索ボタンをクリックして下さい。
- ③未成工事が表示されるので、振替対象の工事を選択します。

【参考】

[全て解除]ボタンで[選]のチェックを一括で外すことが可能です。もう1度ボタンをクリックすると表示される工事全ての[選]にチェックが入ります。

- ④[実行]ボタンをクリックして完成振替処理を完了させます。

【注意】

1. 完成日(進捗日)が必須入力項目になります。空欄の場合、完成振替できません。
2. 未成工事を完成振替した場合、完成振替済のチェックはONになりません。
3. 出力結果に変更はありません。

●汎用工事体系書出●

【概要】

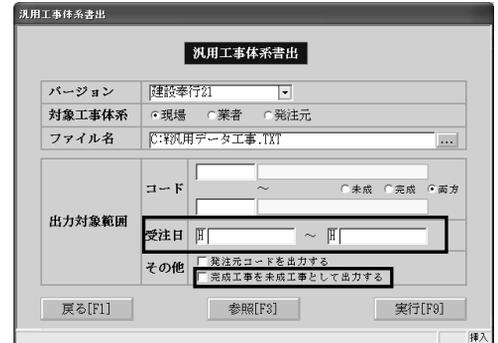
建設奉行21・勘定奉行21[個別原価管理編]との連動において、汎用工事体系書出機能に、「受注日」の範囲指定・「完成工事でも未成工事として出力する」オプションを追加しました。

【操作】

①メインメニューから「仕訳伝票転記」→メニューバー「工」→「工事受注書出」をクリックします。

②右の画面が表示されますので、条件を指定し「実行」ボタンをクリックします。

③書出処理が完了すると、確認メッセージが表示されますので「OK」ボタンをクリックします。



注意

1. 受注日が空欄の場合、全期間の工事を書出します。
2. 「完成工事を未成工事として出力する」がONの場合すべて未成工事として出力します。

●税区分変換テーブル●

【概要】

設定画面の税区分変換テーブルに「非売仕」「共売仕」を追加しました。

注意

設定内容は会計ソフトによって異なります。

【操作】

①メインメニューから「仕訳伝票転記」→「財務会計へ転記」→「設定」をクリックします。

②設定画面が表示されますので、「税区分変換テーブル」をクリックします。

③「非売仕」「共売仕」に初期値が設定されています。会計ソフト側の内容を確認して、必要な場合は修正します。



●消費税法改正に伴う変更点●

【概要】

消費税法改正に伴い、下記の内容を変更しました。

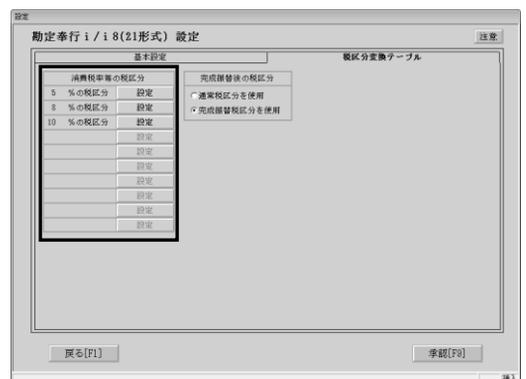
■税区分変換テーブル

設定画面の税区分変換テーブルが消費税率毎に設定できるようになりました。

消費税率の変更が適用された際に、設定の確認をお願いします。

注意

平成25年10月28日現在、新消費税対応バージョンが未発売の会計ソフトの場合は、税区分は空欄になっております。



●勘定奉行i8/i10・i8[個別原価管理編]・i8/i10[建設業編]へ転記●

【概要】

勘定奉行i8/i10、勘定奉行i8/i10[個別原価管理編]、勘定奉行i8/i10[建設業編]に正式対応しました。
書出方法につきましては、「仕訳伝票転記マニュアルforOBC」のP.11～をご参照ください。

●勘定奉行i8での読込方法●

[随時処理]→[汎用データ受入]→[仕訳伝票データ受入]→[仕訳伝票データ受入]より読込を行います。

■基本設定

伝票番号指定：データ上の番号を使用する

■受入ファイル設定

受入データ形式：OBC受入形式

受入元ファイル名：レッツ工事台帳で書き出したファイル名を指定する(例:D:\\$SIWAKE.TXT)

■エラー情報設定

エラー表示：データに不正があった場合に、その都度表示する(チェックON)

※詳しい操作方法につきましては、勘定奉行i8のマニュアルをご参照下さい。

データの出力内容(財務会計へ転記)

■勘定奉行i8/i10

順	項目名	桁数 (半角)	型	通常転記	完成振替
1	伝票区切	1	文字	●伝票の先頭行のみ「*」、2行目以降空白 ※ただし先頭行の「*」は「?」で囲まない	●伝票の先頭行のみ「*」、2行目以降空白 ※ただし先頭行の「*」は「?」で囲まない
2	伝票区分コード	2	数字	●空白(通常伝票)	●空白(通常伝票)
3	用途区分	1	数字	●「0」を出力(振替伝票)	●「0」を出力(振替伝票)
4	部門指定方法	1	数字	●「1」を出力(勘定科目単位)	●「1」を出力(勘定科目単位)
5	伝票部門コード	4	文字	●空白	●空白
6	日付	11	文字	●西暦で出力 出力例)西暦:20110101 ●明細転記:伝票日付を出力 ●合計転記:集計期間の終了日を出力 ●「同一日付指定」の場合はその日付を出力	●西暦で出力 出力例)西暦:20110101 ●工事の完成日(工事登録の「進捗」日付)を出力 ●「同一日付指定」の場合はその日付を出力
7	整理区分	1	数字	●「0」を出力(日常仕訳)	●「0」を出力(日常仕訳)
8	伝票No	15	数字	●「書出順」の指定に従う ●転記のつど「伝票番号」に入力した数字から昇順に出力 ●仕入>支払>査定作成>売上>入金>入金振替伝票の順で付番 ●「転記単位」設定が「工事別仕入先(得意先)毎」の場合は、伝票種類>工事>仕入先(得意先)>科目>部門(ヘッダー)>部門(明細)>工種>税区分ごとに集計して付番 ●250行を超えた行から別な伝票にする ●分割した伝票の伝票番号は別に付ける ※伝票番号は重複可	●転記のつど「伝票番号」に入力した数字から昇順に出力 ●原価科目>売上科目の順で付番 ●工事毎に工事コード昇順で付番 ●250行を超えた行から別な伝票にする ●分割した伝票の伝票番号は別に付ける ※伝票番号は重複可
9	伝票入力形式	1	数字	●「0」を出力(通常入力)	●「0」を出力(通常入力)

10	借方部門コード	4	文字	<ul style="list-style-type: none"> ●部門の転記先設定に従い出力 ●基本設定>通常転記「部門」の設定により出力 ・「損益科目のみ」 ○仕入伝票 損益科目のみ「伝票部門」を出力、他の科目は空白 ○支払伝票 空白 ○売上伝票 空白 ○入金伝票 損益科目のみ「伝票部門」を出力、他の科目は空白 ○振替形式 「借方科目」が損益科目なら「伝票部門」を出力、他の科目は空白 ・「全科目」 ○仕入伝票 全科目に「伝票部門」を出力 ○支払伝票 「仕入先部門」を出力、「仕入先部門」がない場合は「伝票部門」を出力 ○売上伝票 「得意先部門」を出力、「得意先部門」がない場合は「伝票部門」を出力 ○入金伝票 全科目に「伝票部門」を出力、振替形式「借方科目」の「伝票部門」を出力 ・「出力しない」 全伝票空白 	<ul style="list-style-type: none"> ●部門の転記先設定に従い出力 ●基本設定>通常転記「部門」の設定により出力 ・「損益科目のみ」:振替元の部門を出力 ・「全科目」:振替元の部門を出力 ・「出力しない」:空白
				<ul style="list-style-type: none"> ※伝票部門が未入力の場合は空白を出力 ※伝票計の消費税:伝票部門はなし ※仕入先(得意先)部門:伝票ヘッダー部の部門 ※伝票部門:伝票の各入力行の部門 ※損益科目:科目分類が「売上高」「原価」「販管費」「営業外収益」「営業外費用」「仮受消費税」「仮払消費税」の科目 	
11	借方勘定科目コード	4	文字	<ul style="list-style-type: none"> ●科目、得意先、仕入先の転記先設定に従い出力 仕入伝票:「科目」の転記先 支払伝票:「仕入先」の通常転記先 売上伝票:「得意先」の通常転記先 入金伝票:「科目」の転記先 振替形式:「借方科目」の通常転記先 ●完成振替後は完成振替転記先を出力 ※通常転記先のみ設定している場合は通常転記先科目に転記 	<ul style="list-style-type: none"> ●科目の転記先設定に従い出力 原価科目:借方科目(完成振替転記先) 売上科目:貸方科目(通常転記先)
				<ul style="list-style-type: none"> ※借方科目:通常転記で借方に出力される科目(原価科目) 貸方科目:通常転記で貸方に出力される科目(売上科目) 	
12	借方補助科目コード	4	文字	<ul style="list-style-type: none"> ●科目、得意先、仕入先の転記先設定に従い出力 仕入伝票:「科目」の転記先 支払伝票:「仕入先」の通常転記先 売上伝票:「得意先」の通常転記先 入金伝票:「科目」の転記先 振替形式:「借方科目」の通常転記先 ●完成振替後は完成振替転記先を出力 	<ul style="list-style-type: none"> ●科目の転記先設定に従い出力 原価科目:借方科目(完成振替転記先) 売上科目:貸方科目(通常転記先) ●転記先に補助科目がない場合は空白
13	借方税区分コード	4	数字	<ul style="list-style-type: none"> ●税区分の転記先設定に従い出力 仕入伝票:「通常転記」の税区分 支払伝票:「対象外」 売上伝票:「対象外」 入金伝票:「通常転記」の税区分 振替形式:借方科目の税区分に応じた「通常転記」の税区分 ●外税伝票計の消費税:税区分は台帳「科目-消費税」の登録に従う 	<ul style="list-style-type: none"> ●税区分の転記先設定に従い出力 原価科目:「振替先」の税区分 売上科目:「振替元」の税区分
14	借方税率区分コード	4	数字	<ul style="list-style-type: none"> ●転記設定の税率区分に従い出力 消費税を出力する税区分の場合に税率区分を出力 	<ul style="list-style-type: none"> ●転記設定の税率区分に従い出力 消費税を出力する税区分の場合に税率区分を出力
15	借方事業区分コード	4	数字	<ul style="list-style-type: none"> ●空白 	<ul style="list-style-type: none"> ●空白

16	借方消費税計算	1	数字	<ul style="list-style-type: none"> ●経理方式「税抜」「税込」により下記出力 ・税抜経理 原価管理GO! の伝票税区分が内税:「2」 原価管理GO! の伝票税区分が明細単位:「1」 他:「0」 ・税込経理 前項で消費税金額を出力する行:「1」 他:「0」 	<ul style="list-style-type: none"> ●経理方式「税抜」「税込」に関わらず下記出力 前項で消費税金額を出力する行:「2」 他:「0」
17	借方端数処理	1	数字	<ul style="list-style-type: none"> ●伝票の税端数を出力 0:切上げ1:四捨五入2:切捨て 	<ul style="list-style-type: none"> ●伝票の税端数を出力 0:切上げ1:四捨五入2:切捨て
18	借方取引先コード	13	文字	<ul style="list-style-type: none"> ●基本設定>「取引先コード」の設定に従う ○出力する 得意先、仕入先の転記先設定で登録された取引先コードを出力する コード登録がない場合は出力しない ○出力しない 出力しない ※「プロジェクトコード」がなくても登録可能 	<ul style="list-style-type: none"> ●出力しない
19	借方本体金額	13	数字	<ul style="list-style-type: none"> ●経理方式が「税抜」「税込」により税区分ごとに下記出力 ・税抜経理の場合 ○仕入伝票 (通常転記) 税区分 出力する金額 課税仕:税抜外税、税込内税 非課税:税込金額 対象外:税込金額 完課税:税込金額 課税返:税抜外税、税込内税 不明 :税込金額 立替仕:税込金額 (完成振替後の通常転記) 税区分 出力する金額 課税仕:税抜外税、税込内税 非課税:税込金額 対象外:税込金額 完課税:税抜外税、税込内税 課税返:税抜外税、税込内税 不明 :税込金額 立替仕:税込金額 ○支払伝票 税込金額 ○売上伝票 税込金額 	<ul style="list-style-type: none"> ●原価科目 通常転記の借方金額を工事>科目(補助科目)>部門(明細)>税区分ごとに集計して出力 集計した借方金額を下記のとおり出力 ●売上科目 通常転記の貸方金額を工事>科目(補助科目)>部門(明細)>税区分ごとに集計して出力 集計した貸方金額を下記のとおり出力 ・税抜経理の場合 ○原価科目 税区分 出力する金額 課税仕:税抜金額 非課税:税込金額 対象外:税込金額 完課税:税込内税 課税返:税抜金額 不明 :税込金額 立替仕:税込金額 ○売上科目 税区分 出力する金額 課税売:税抜金額 非課売:税込金額 対象外:税込金額 完課売:税込金額 課売返:税抜金額 不明 :税込金額

	<p>○入金伝票 (通常転記) 税区分 出力する金額 課税仕: 税抜外税、税込内税 非課仕: 税込金額 対象外: 税込金額 完課仕: 税込金額 課仕返: 税抜外税、税込内税 不明 : 税込金額</p> <p>(完成振替後の通常転記) 税区分 出力する金額 課税仕: 税抜外税、税込内税 非課仕: 税込金額 対象外: 税込金額 完課仕: 税抜外税、税込内税 課仕返: 税抜外税、税込内税 不明 : 税込金額</p> <p>○振替形式伝票の借方 (通常転記) 税区分 出力する金額 課税仕: 税抜外税、税込内税 課税売: 税抜外税、税込内税 非課仕: 税込金額 非課売: 税込金額 対象外: 税込金額 完課仕: 税込金額 完課売: 税込金額 課仕返: 税抜外税、税込内税 課売返: 税抜外税、税込内税 不明 : 税込金額 立替仕: 税込金額</p>	<p>・税込経理の場合 完課仕は「税込内税」、その他すべて「税込金額」 ※税区分「完課仕」「完課売」は、通常転記では対象外で出力されるが、完成振替では課税区分で振替される ※ 税区分「立替仕」は、原価管理GO! では課税区分として扱われるが通常転記、完成振替ともに対象外で出力される</p>
	<p>(完成振替後の通常転記) 税区分 出力する金額 課税仕: 税抜外税、税込内税 課税売: 税抜外税、税込内税 非課仕: 税込金額 非課売: 税込金額 対象外: 税込金額 完課仕: 税抜外税、税込内税 完課売: 税抜外税、税込内税 課仕返: 税抜外税、税込内税 課売返: 税抜外税、税込内税 不明 : 税込金額 立替仕: 税込金額</p>	
	<p>・税込経理の場合 すべて「税込」で出力 ※税抜外税: 明細行が外税なら税抜金額で出力</p>	

20	借方消費税金額	13	数字	<p>●経理方式が「税抜」「税込」に関わらず税区分ごとに下記出力</p> <p>○仕入伝票 (通常転記)</p> <p>税区分 出力する金額 課税仕:消費税金額 非課税:「0」 対象外:「0」 完課仕:「0」 課仕返:消費税金額 不明 :「0」 立替仕:「0」</p> <p>(完成振替後の通常転記)</p> <p>税区分 出力する金額 課税仕:消費税金額 非課税:「0」 対象外:「0」 完課仕:消費税金額 課仕返:消費税金額 不明 :「0」 立替仕:「0」</p> <p>※「外税伝票計」は「0」(消費税は「金額」に出力される)</p> <p>○支払伝票 「0」</p> <p>○売上伝票 「0」</p>	<p>●原価科目 集計した通常転記の借方消費税を下記のとおり出力</p> <p>●売上科目 集計した通常転記の貸方消費税を下記のとおり出力</p> <p>・税抜経理の場合</p> <p>○原価科目 税区分 出力する金額 課税仕:「0」 非課税:「0」 対象外:「0」 完課仕:消費税金額 課仕返:「0」 不明 :「0」 立替仕:「0」</p> <p>○売上科目 「0」</p> <p>・税込経理の場合</p> <p>○原価科目 税区分 出力する金額 課税仕:「0」 非課税:「0」 対象外:「0」 完課仕:消費税金額 課仕返:「0」 不明 :「0」 立替仕:「0」</p>
				<p>○入金伝票 (通常転記)</p> <p>税区分 出力する金額 課税仕:消費税金額 非課税:「0」 対象外:「0」 完課仕:「0」 課仕返:消費税金額 不明 :「0」</p> <p>(完成振替後の通常転記)</p> <p>税区分 出力する金額 課税仕:消費税金額 非課税:「0」 対象外:「0」 完課仕:消費税金額 課仕返:消費税金額 不明 :「0」</p> <p>○振替形式伝票の借方 (通常転記)</p> <p>税区分 出力する金額 課税仕:消費税金額 課税売:消費税金額 非課税:「0」 非課売:「0」 対象外:「0」 完課仕:「0」 完課売:「0」 課仕返:消費税金額 課売返:消費税金額 不明 :「0」 立替仕:「0」</p>	<p>○売上科目 「0」</p>

			(完成振替後の通常転記) 税区分 出力する金額 課税仕:消費税金額 課税売:消費税金額 非課仕:「0」 非課売:「0」 対象外:「0」 完課仕:消費税金額 完課売:消費税金額 課仕返:消費税金額 課売返:消費税金額 不明 :「0」 立替仕:「0」	
21	貸方部門コード	4	文字 ●部門の転記先設定に従い出力 ●基本設定>通常転記「部門」の設定により出力 ・「損益科目のみ」 ○仕入伝票 空白 ○支払伝票 損益科目のみ「伝票部門」を出力、他の科目は空白 ○売上伝票 損益科目のみ「伝票部門」を出力、他の科目は空白 ○入金伝票 空白 ○振替形式 「貸方科目」が損益科目なら「伝票部門」を出力、他の科目は空白 ・「全科目」 ○仕入伝票 「仕入先部門」を出力、「仕入先部門」がない場合は「伝票部門」を出力 ○支払伝票 全科目に「伝票部門」を出力 ○売上伝票	●部門の転記先設定に従い出力 ●基本設定>通常転記「部門」の設定により出力 ・「損益科目のみ」:振替元の部門を出力 ・「全科目」:振替元の部門を出力 ・「出力しない」:空白
			○入金伝票 「得意先部門」を出力、「得意先部門」がない場合は「伝票部門」を出力 ○ 振替形式 「貸方科目」の「伝票部門」を出力 ・「出力しない」 全伝票空白 ※伝票部門が未入力の場合は空白を出力 ※伝票計の消費税:伝票部門はなし ※仕入先(得意先)部門:伝票ヘッダー部の部門 ※伝票部門:伝票の各入力行の部門 ※ 損益科目:科目分類が「売上高」「原価」「販	
22	貸方勘定科目コード	4	文字 ●科目、得意先、仕入先の転記先設定に従い出力 仕入伝票:「仕入先」の転記先 支払伝票:「科目」の通常転記先 売上伝票:「科目」の通常転記先 入金伝票:「得意先」の転記先 振替形式:「貸方科目」の通常転記先 ●完成振替後は完成振替転記先を出力 ※通常転記先のみ設定している場合は通常転	●科目の転記先設定に従い出力 原価科目:借方科目(通常転記先) 売上科目:貸方科目(完成振替転記先) ※借方科目:通常転記で借方に出力される科目(原価科目) 貸方科目:通常転記で貸方に出力される科目(売上科目)
23	貸方補助科目コード	4	文字 ●科目、得意先、仕入先の転記先設定に従い出力 仕入伝票:「仕入先」の転記先 支払伝票:「科目」の通常転記先 売上伝票:「科目」の通常転記先 入金伝票:「得意先」の転記先 振替形式:「貸方科目」の通常転記先 ●完成振替後は完成振替転記先を出力	●科目の転記先設定に従い出力 原価科目:借方科目(通常転記先) 売上科目:貸方科目(完成振替転記先) ●転記先に補助科目がない場合は空白

24	貸方税区分コード	4	数字	<ul style="list-style-type: none"> ●税区分の転記先設定に従い出力 仕入伝票:「対象外」 支払伝票:「通常転記」の税区分 売上伝票:「通常転記」の税区分 入金伝票:「対象外」 振替形式貸方:科目の税区分に応じた「通常転記」の税区分 ●外税伝票計の消費税:税区分は台帳「科目-消費税」の登録に従う 	<ul style="list-style-type: none"> ●税区分の転記先設定に従い出力 原価科目:「振替元」の税区分 売上科目:「振替先」の税区分
25	貸方税率区分コード	4	数字	<ul style="list-style-type: none"> ●転記設定の税率区分に従い出力 消費税を出力する税区分の場合に税率区分を出力 	<ul style="list-style-type: none"> ●転記設定の税率区分に従い出力 消費税を出力する税区分の場合に税率区分を出力
26	貸方事業区分コード	4	数字	<ul style="list-style-type: none"> ●空白 	<ul style="list-style-type: none"> ●空白
27	貸方消費税計算	1	数字	<ul style="list-style-type: none"> ●経理方式「税抜」「税込」により下記出力 ・税抜経理 原価管理GO! の伝票税区分が内税:「2」 原価管理GO! の伝票税区分が明細単位:「1」 他:「0」 ・税込経理 前項で消費税金額を出力する行:「1」 他:「0」 	<ul style="list-style-type: none"> ●経理方式「税抜」「税込」に関わらず下記出力 前項で消費税金額を出力する行:「1」 他:「0」
28	貸方端数処理	1	数字	<ul style="list-style-type: none"> ●伝票の税端数を出力 0:切上げ1:四捨五入2:切捨て 	<ul style="list-style-type: none"> ●伝票の税端数を出力 0:切上げ1:四捨五入2:切捨て
29	貸方取引先コード	13	文字	<ul style="list-style-type: none"> ●基本設定>「取引先コード」の設定に従う ○出力する 得意先、仕入先の転記先設定で登録された取引先コードを出力する コード登録がない場合は出力しない ○出力しない 出力しない ※「プロジェクトコード」がなくても登録可能 	<ul style="list-style-type: none"> ●出力しない
30	貸方本体金額	13	数字	<ul style="list-style-type: none"> ●経理方式が「税抜」「税込」により税区分ごとに下記出力 ・税抜経理の場合 ○仕入伝票 税込金額 ○支払伝票 (通常転記) 	<ul style="list-style-type: none"> ●原価科目 通常転記の借方金額を工事>科目(補助科目)>部門(明細)>税区分ごとに集計して出力 集計した借方金額を下記のとおり出力 ●売上科目 通常転記の貸方金額を工事>科目(補助科目)>部門(明細)>税区分ごとに集計して出力
				<ul style="list-style-type: none"> 税区分 出力する金額 課税仕:税抜外税、税込内税 非課税:税込金額 対象外:税込金額 完課税:税込金額 課税返:税抜外税、税込内税 不明 :税込金額 立替仕:税込金額 (完成振替後の通常転記) 税区分 出力する金額 課税仕:税抜外税、税込内税 非課税:税込金額 対象外:税込金額 完課税:税抜外税、税込内税 課税返:税抜外税、税込内税 不明 :税込金額 立替仕:税込金額 ○売上伝票 (通常転記) 税区分 出力する金額 課税売:税抜外税、税込内税 非課売:税込金額 対象外:税込金額 完課売:税込金額 課売返:税抜外税、税込内税 不明 :税込金額 	<ul style="list-style-type: none"> 集計した貸方金額を下記のとおり出力 ・税抜経理の場合 ○原価科目 税区分 出力する金額 課税仕:税抜金額 非課税:税込金額 対象外:税込金額 完課税:税込金額 課税返:税抜金額 不明 :税込金額 立替仕:税込金額 ○売上科目 税区分:出力する金額 課税売:税抜金額 非課売:税込金額 対象外:税込金額 完課売:税込金額 課売返:税抜金額 不明 :税込金額 ・税込経理の場合 完課売は「税込内税」、その他すべて「税込金額」 ※税区分「完課仕」「完課売」は、通常転記では対象外で出力されるが、完成振替では課税区分で振替される ※ 税区分「立替仕」は、原価管理GO! では課税区分として扱われるが通常転記、完成振替と

		<p>(完成振替後の通常転記) 税区分 出力する金額 課税売:税抜外税、税込内税 非課売:税込金額 対象外:税込金額 完課売:税抜外税、税込内税 課売返:税抜外税、税込内税 不明 :税込金額</p> <p>○入金伝票 税込金額</p> <p>○振替形式伝票の貸方 (通常転記) 税区分 出力する金額 課税仕:税抜外税、税込内税 課税売:税抜外税、税込内税 非課仕:税込金額 非課売:税込金額 対象外:税込金額 完課仕:税込金額 完課売:税込金額 課仕返:税抜外税、税込内税 課売返:税抜外税、税込内税 不明 :税込金額 立替仕:税込金額</p>	
		<p>(完成振替後の通常転記) 税区分 出力する金額 課税仕:税抜外税、税込内税 課税売:税抜外税、税込内税 非課仕:税込金額 非課売:税込金額 対象外:税込金額 完課仕:税込金額 完課売:税込金額 課仕返:税抜外税、税込内税 課売返:税抜外税、税込内税 不明 :税込金額 立替仕:税込金額</p> <p>・税込経理の場合 すべて「税込」で出力 ※税抜外税:明細行が外税なら税抜金額で出力</p>	

31	貸方消費税金額	13	数字	<p>● 経理方式が「税抜」「税込」に関わらず税区分ごとに 下記出力 ○仕入伝票 「0」</p> <p>○支払伝票 (通常転記) 税区分 出力する金額 仕:消費税金額 「0」 対象外:「0」 完課仕:「0」 課仕返:消費税金額 不明 :「0」 立替仕:「0」</p> <p>(完成振替後の通常転記) 税区分 出力する金額 課税仕:消費税金額 非課仕:「0」 対象外:「0」 完課仕:消費税金額 課仕返:消費税金額 不明 :「0」 立替仕:「0」</p> <p>○売上伝票 (通常転記) 税区分 出力する金額 課税売:消費税金額 非課売:「0」 対象外:「0」 完課売:「0」 課売返:消費税金額</p>	<p>●原価科目 集計した通常転記の借方消費税を下記のとおり出力 ●売上科目 集計した通常転記の貸方消費税を下記のとおり出力 ・税抜経理の場合 ○原価科目 「0」</p> <p>○売上科目 税区分 出力する金額 課税売:「0」 非課売:「0」 対象外:「0」 完課売:消費税金額 課売返:「0」 不明 :「0」</p> <p>・税込経理の場合 ○原価科目 「0」</p> <p>○売上科目 税区分 出力する金額 課税売:「0」 非課売:「0」 対象外:「0」 完課売:消費税金額 課売返:「0」 不明:「0」</p>
				<p>(完成振替後の通常転記) 税区分 出力する金額 課税売:消費税金額 非課売:「0」 対象外:「0」 完課売:消費税金額 課売返:消費税金額 不明 :「0」 ※「外税伝票計」は「0」(消費税は「金額」に出力される)</p> <p>○入金伝票 「0」</p> <p>○振替形式伝票の貸方 (通常転記) 税区分 出力する金額 課税仕:消費税金額 課税売:消費税金額 非課仕:「0」 非課売:「0」 対象外:「0」 完課仕:「0」 完課売:「0」 課仕返:消費税金額 課売返:消費税金額 不明 :「0」 立替仕:「0」</p>	
				<p>(完成振替後の通常転記) 税区分 出力する金額 課税仕:消費税金額 課税売:消費税金額 非課仕:「0」 非課売:「0」 対象外:「0」 完課仕:消費税金額 完課売:消費税金額 課仕返:消費税金額 課売返:消費税金額 不明 :「0」 立替仕:「0」</p>	

32	摘要	40	文字	<ul style="list-style-type: none"> ●基本設定＞通常転記「摘要転記内容」の選択項目が転記される ●各項目間には半角スペースが入る ●合計転記も明細転記の設定に従うが、「伝票番号」「商品」「仕様」は出力しない 	<ul style="list-style-type: none"> ●基本設定＞完成振替「摘要転記内容」の選択項目が転記される ●各項目間には半角スペースが入る ●40桁を超えた場合は「転記画面の伝票摘要」の文字数を少なく転記する
----	----	----	----	---	---

●勘定奉行*i/i8/i10* [個別原価管理編]●

【概要】

勘定奉行*i/i8/i10*[個別原価管理編]へのデータの出力内容は、以下の通りです。

■工事受注書出

順	項目名	桁数 (半角)	型	データの出力内容
1	プロジェクト区切	1	文字	「*」を出力
2	プロジェクトコード	8	英数 カナ	「工事コード」
3	プロジェクト名	50	文字	「工事名称」の左から50桁を出力
4	プロジェクト略称	16	文字	「工事略称」
5	用途区分	1	数字	「0」を出力(通常)
6	完成時の処理	1	数字	「0」を出力(製造原価)
7	売上高の計上方法	1	数字	「0」を出力(完成基準)
8	完成区分	1	数字	「進捗率」が100%の時は「1」を出力、100%未満の時は「0」を出力
9	進捗率	3	数字	「進捗率」
10	完成日	11	文字	「進捗率入力日」
11	予定期間(開始)	11	文字	「工事日程」→「着工日(予定)」を出力
12	予定期間(終了)	11	文字	「工事日程」→「竣工日(予定)」を出力
13	親プロジェクト コード	8	英数 カナ	「グループ」
14	請負日付	11	文字	「請負金額」→「契約日付(1行目)」を出力
15	請負区分	1	数字	「0」を出力(売上)
16	税抜金額	13	数字	「請負金額」→「税抜金額」を出力
17	消費税額	13	数字	「請負金額」→「消費税」を出力
18	基準値	1	数字	「1」を出力(使用する)
19	取引先コード	8	英数 カナ	「得意先コード」

●勘定奉行*i/i8/i10* [建設業編]●

【概要】

勘定奉行*i/i8/i10*[建設業編]へのデータの出力内容は、以下の通りです。

■工事受注書出

順	項目名	桁数 (半角)	型	データの出力内容
1	工事区切	1	文字	「*」を出力
2	工事コード	11	文字	「工事コード」
3	工事番号	11	文字	「工事コード」
4	工事名	100	文字	「工事名称」
5	工事略称	60	文字	「工事略称」
6	用途区分	1	数字	「0」を出力(通常)
7	工事場所	60	文字	「工事場所」
8	都道府県	4	文字	「工事経歴書」→「都道府県」
9	市区町村	12	文字	「工事経歴書」→「市区町村」
10	発注者コード	20	文字	「得意先コード」
11	配置技術者コード	10	文字	「工事経歴書」→「配置技術者コード」
12	技術者区分	1	数字	「工事経歴書」→「配置技術者」 0:主任技術者 1:監視技術者 2:該当しない

13	元請または下請	1	数字	「受注区分」 0:元請 1:下請
14	JV	1	数字	「工事経歴書」→「JV」 0:「単一企業」チェックOFF 1:「共同企業体」チェックON
15	完成時の処理	1	数字	「0」を出力(完成工事原価)
16	完成工事高の計上方法	1	数字	「0」を出力(完成基準)
17	完成区分	1	数字	「進捗率」が100%の時は「1」を出力、100%未満の時は「0」を出力
18	進捗率	3	数字	「進捗率」
19	完成日	11	文字	完成:「進捗」→「日付」を出力
20	予定期間(開始)	11	文字	「工事日程」→「着工日(予定)」、空白の場合「受注日」を出力
21	予定期間(終了)	11	文字	「工事日程」→「竣工日(予定)」、空白の場合「受注日」を出力
22	請負日付	11	文字	「請負金額」→「契約日付(1行目)」を出力
23	請負区分	1	数字	「0」を出力(売上)
24	税抜金額	13	数字	「請負金額」合計
25	消費税額	13	数字	「請負金額消費税」合計
26	取引先コード	13	文字	得意先マスター_変換コード(主)

■取引先(仕入先)

順	項目名	桁数 (半角)	型	データの出力内容
1	取引先コード	13	文字	「仕入先」のコード
2	取引先フリガナ	14	文字	「仕入先」のフリガナ
3	取引先名1	32	文字	「仕入先」の「名称1」左より32桁出力
4	取引先名2	24	文字	「仕入先」の「名称2」
5	インデックス	10	文字	「仕入先」のフリガナ
6	郵便番号	10	文字	「仕入先」の「郵便番号」
7	住所1	40	文字	「仕入先」の「住所1」
8	住所2	40	文字	「仕入先」の「住所2」
9	電話番号	16	文字	「仕入先」の「TEL」
10	FAX番号	16	文字	「仕入先」の「FAX」
11	メモ1	40	文字	「仕入先」の備考

■発注者(得意先)

順	項目名	桁数 (半角)	型	データの出力内容
1	発注者コード	13	文字	「得意先」コード
2	発注者フリガナ	14	文字	「得意先」のフリガナ
3	発注者名1	32	文字	「得意先」の「名称1」左より32桁出力
4	発注者名2	24	文字	「得意先」の「名称2」
5	インデックス	10	文字	「得意先」のフリガナ
6	郵便番号	10	文字	「得意先」の「郵便番号」
7	住所1	40	文字	「得意先」の「住所1」
8	住所2	40	文字	「得意先」の「住所2」
9	電話番号	16	文字	「得意先」の「TEL」
10	FAX番号	16	文字	「得意先」の「FAX」
11	メモ1	40	文字	「得意先」の備考